

旭労災病院ニュース

病院情報誌 第 19 号 平成 19 年 6 月 1 日発行

発行所：旭労災病院

〒488-8585

尾張旭市平子町北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.go.jp/>

大腿骨頸部骨折に対する地域連携パス運用

整形外科部長 花林 昭裕



人口の高齢化が進んだこと、当院の周辺に老人保健施設が多いことにより当院にも数多くの高齢の骨折患者が運ばれてきます。その中でも大きな割合を示す大腿骨頸部骨折は手術を行わない場合長期間臥床が必要となり、さらにその成績も不良であるため、殆どの症例で観血的整復固定術や人工骨頭置換術の適応になる骨折です。いずれの手術を行っても術後 1 週より歩行訓練が可能ですが、高齢であるが故に骨折をおこされる以前から内科的疾患を合併していることが多いこと、歩行能が低下していること、認知症を合併していることが多いことなどを理由にリハビリテーションはなかなか進まず長期間の入院が必要となります。

昨年 4 月に大腿骨頸部骨折に対して地域連携診療計画管理料、地域連携診療計画退院時指導料が新設され保険で算定できるようになりました。これは地域連携パスと呼ばれ、急性期から慢性期に至る医療機関のクリニカルパスを地域まで延長し、保健・福祉のサービスを連携させるものをいいます。当院でも連携する保険医療機関として名古屋市守山区では川島病院、富安病院、尾張旭市では可知整形外科、瀬戸市では青山病院、あさい病院、春日井市では白山リハビリテーション病院、東海記念病院と共通したクリニカルパスを作成し運用しております。さらに、今年に入ってから当院と同様の計画管理病院として愛知医大、陶生病院とともに共通したクリニカルパスを作成いたしました。これにより術後 2～4 週間を目標として、骨折部や内科的に問題がなくリハビリテーションが主な治療となった患者の転院がスムーズに行われるようになってきました。

今後も当院と病診連携を結んでいただいております医療機関の先生方のご協力をいただき地域連携パスをうまく運用することにより、医療側にもご家族を含めた患者側にも有益なものになるようになればと考えております。

慢性呼吸器疾患に対する非薬物療法の重要性

呼吸器科部長
加藤 高志



高齢化、喫煙、環境の変化に伴って、COPD は世界的に増加の傾向にあります。また瀬戸・尾張旭地区は塵肺と肺結核後遺症患者が多く、咳、痰、呼吸困難感で苦しんでいる方が目立ちます。このような慢性呼吸器疾患によって生じた呼吸機能障害を持つ患者さんに対しては、近年、薬物療法と併せて非薬物療法の重要性が示唆され、呼吸リハビリテーション(肺理学療法、運動療法)、患者教育(禁煙、日常生活全般)、心理的・社会的支援、栄養管理、酸素療法などが不可欠と考えられています。なかでも呼吸リハビリテーションの重要性が指摘され、エビデンスの根拠が得られています。

「在宅呼吸ケア白書」のなかで、患者さんからの療養生活、指導に対する要望は、「療養生活についてもっと教えてほしい」、「病気が悪化したときの症状を教えてほしい」、「呼吸器教室を地域規模で行ってほしい」が上位3位であり、自己管理能力の獲得や疾患の重症化予防につながる情報の提供が求められていました。なかでも、「息切れを軽くする日常生活動作の工夫」、「呼吸訓練」、「パニックコントロール」についての要望が強いようです。

これらの要望に応えるため、私たちは、慢性呼吸器疾患患者さんが比較的安定している春から秋にかけて、非薬物療法目的で2週間前後の入院診療を行っています。看護師、理学・呼吸療法士、栄養士、薬剤師、酸素機器業者などの参加によるチーム医療にて行っており、おおむね好評を得ているようです。同時に在宅酸素療法の適応についても検討し、適応基準を満たしていれば導入の手配もしています。また、一定以上の障害を有する場合には、身体障害者手帳取得の手配も併せて行い、等級に応じた身体障害者福祉法による援助および各自治体の条例による公費補助を受けられるように配慮しています。もし、呼吸困難感などの症状で悩まれており、日常生活に不安を感じているような患者さんが見えでしたら、ご紹介いただければ幸いです。